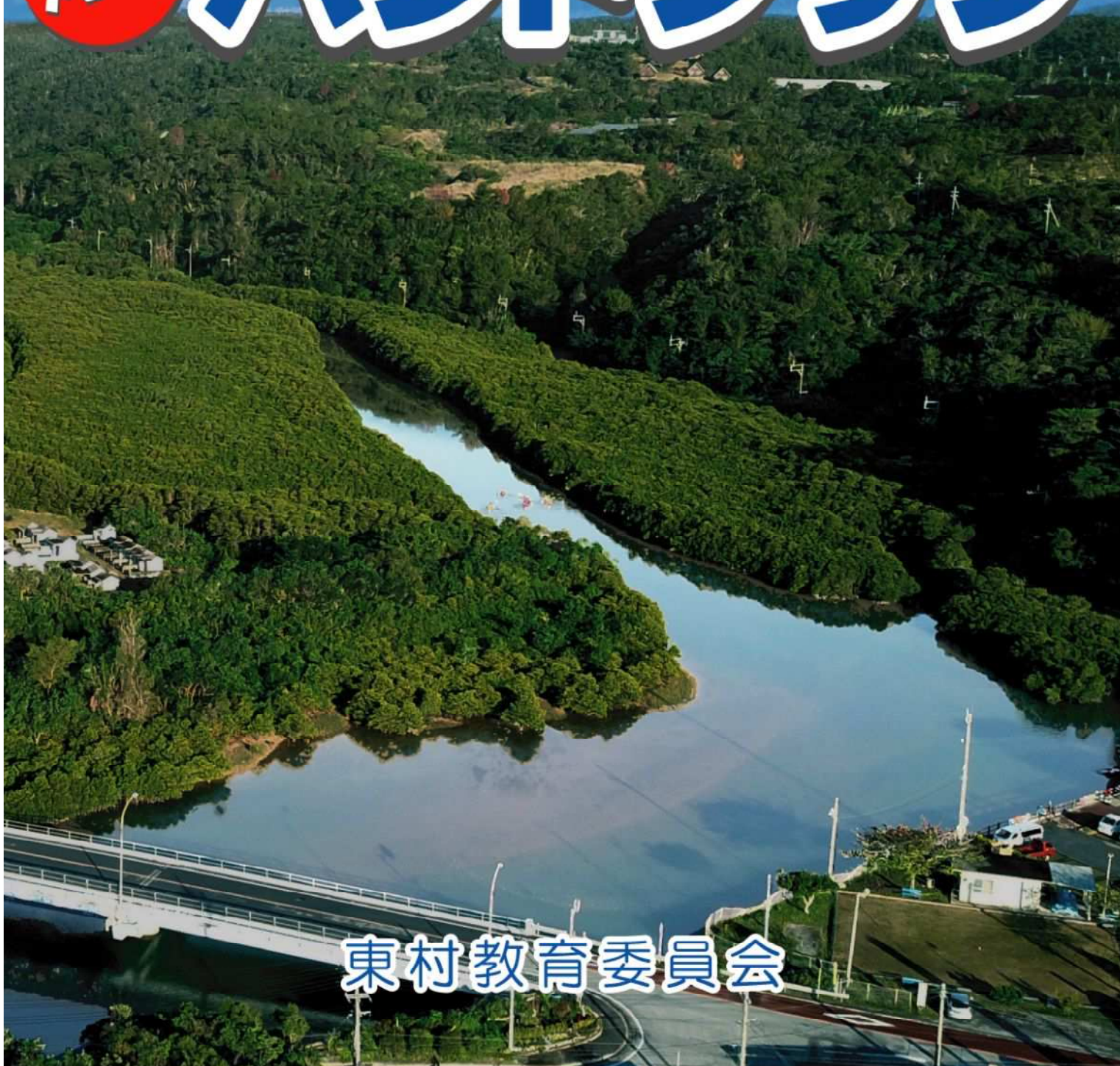


「慶佐次湾のヒルギ林」とその周辺における

外来植物 対策ハンドブック



東村教育委員会

目 次

① はじめに	-----	1
② 掲載種について	-----	2
③ 対象外来種の駆除に関する注意事項	-----	3
④ 掲載種の生育地索引図面	-----	4
⑤ 掲載種	-----	6
1. 早急な対策が必要な外来種	-----	6
2. 監視が必要な外来種	-----	24
3. その他の外来種	-----	38
⑥ 用語解説	-----	58
⑦ 和名索引(50 音)	-----	62
⑧ 参考文献	-----	63



① はじめに

【外来種について】

現在、日本には多くの外来種が侵入しています。「外来種」とは、本来生息・生育していた場所から別の場所に持ち込まれた生物を指します。これに対して、もともとその地域に生息・生育していた生物を「在来種」と呼びます。外来種は、その地域に生息していた在来種や地域の生態系に大きな影響を与える場合があります。

そこで、外来生物による生態系、人の生命・身体又は農林水産業への被害を防止することを目的に、「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」（以下「外来生物法」と呼ぶ。）が平成17年6月1日より施行されています。

この法律により、「特定外来生物」に指定された生物について、飼養、栽培、保管、運搬、輸入、譲渡などが禁止されるとともに、すでに野外に入り込んでいる「特定外来生物」について、さまざまな主体による防除が進められています。

【本書の目的】

このハンドブックは、当該地域の生態系や自然景觀に影響を与えるおそれのある外来植物に対し、適切な対応をとる上での参考資料として、広く活用して頂くことを目的としています。

② 掲載種について

掲載種については、当該地域で確認された外来植物と将来、侵入するおそれのある外来植物を掲載しています。なお、掲載する外来種は、国指定天然記念物「慶佐次湾のヒルギ林」とその背後のバックマングローブに及ぼす影響の緊急度から3つに分けて掲載しました。

1. 早急な対策が必要な外来種

ヒルギ林の景観阻害や、ヒルギ林に定着し、生育し続けると陸化に拍車をかけてしまうことから早急な対策が必要な外来種です。

2. 監視が必要な外来種

将来、侵入・定着した場合、地域の生態系やヒルギ林に影響を及ぼすおそれがあるため、監視が必要な外来種です。

3. その他の外来種

ヒルギ林に対して直接的な影響は低いものの、外来種として抑制する必要があります。現状においては道路維持管理で行われている草刈りや、抜き取り等の対応で済みます外来種です。

③ 対象外来種の駆除に関する注意事項

本地域は「国指定天然記念物」と「やんばる国立公園第1種特別地域」に指定されているため、駆除作業に関して東村の担当部署へ報告をする必要があります。

皆様のご協力を、お願いいたします。

1.個人で実施する場合

駆除対象が小規模で、発見者が持ち帰り、焼却処分（燃えるゴミとして処理）できるものは、駆除の後に、東村へ報告して下さい。

2.団体で実施する場合

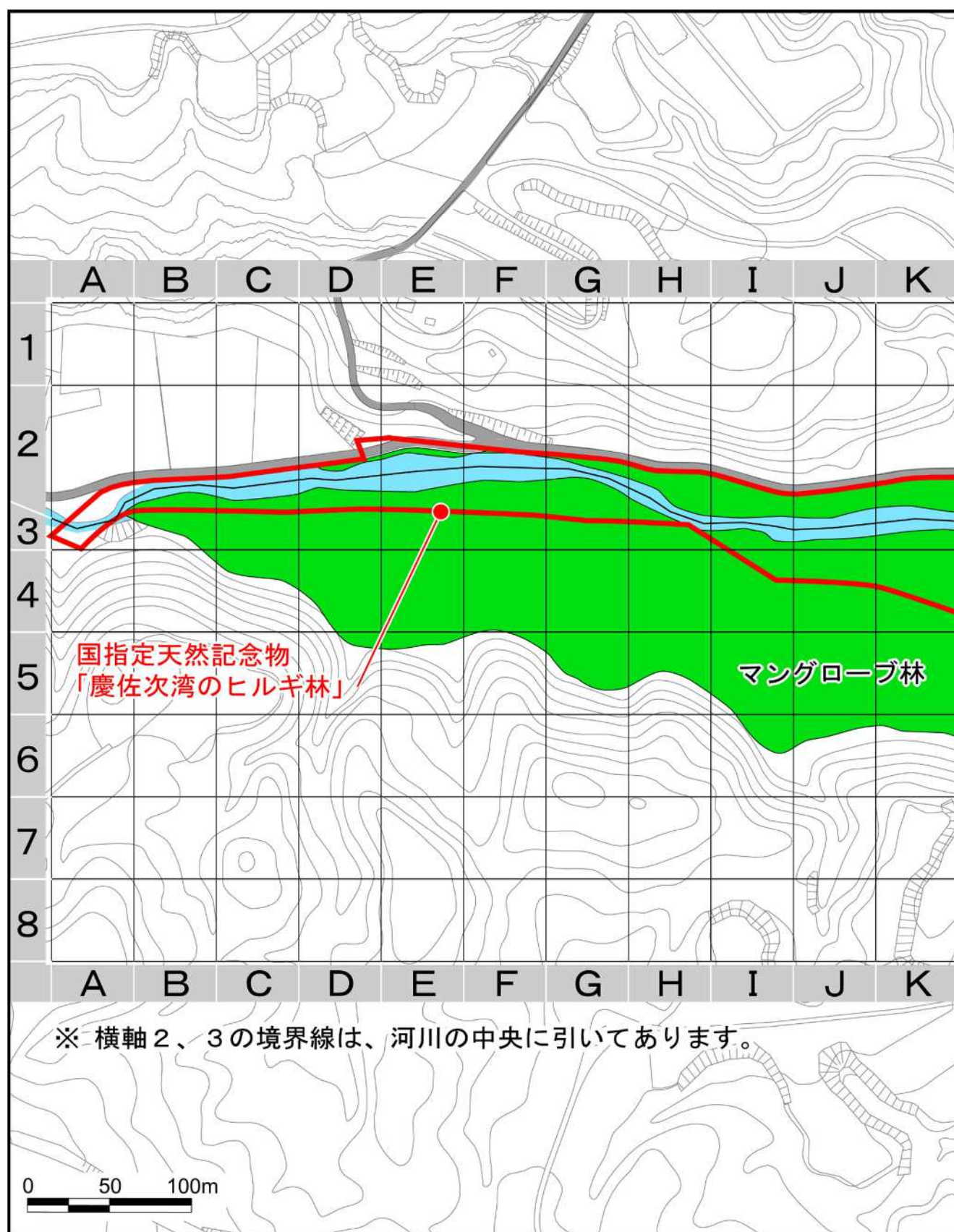
大規模な群落の駆除や、イベント等で駆除作業を実施する場合は、種子が散逸する可能性や他の地域への拡散を防止するため事前に日時、場所等について東村と慶佐次区へ報告し、事後報告を行って下さい。

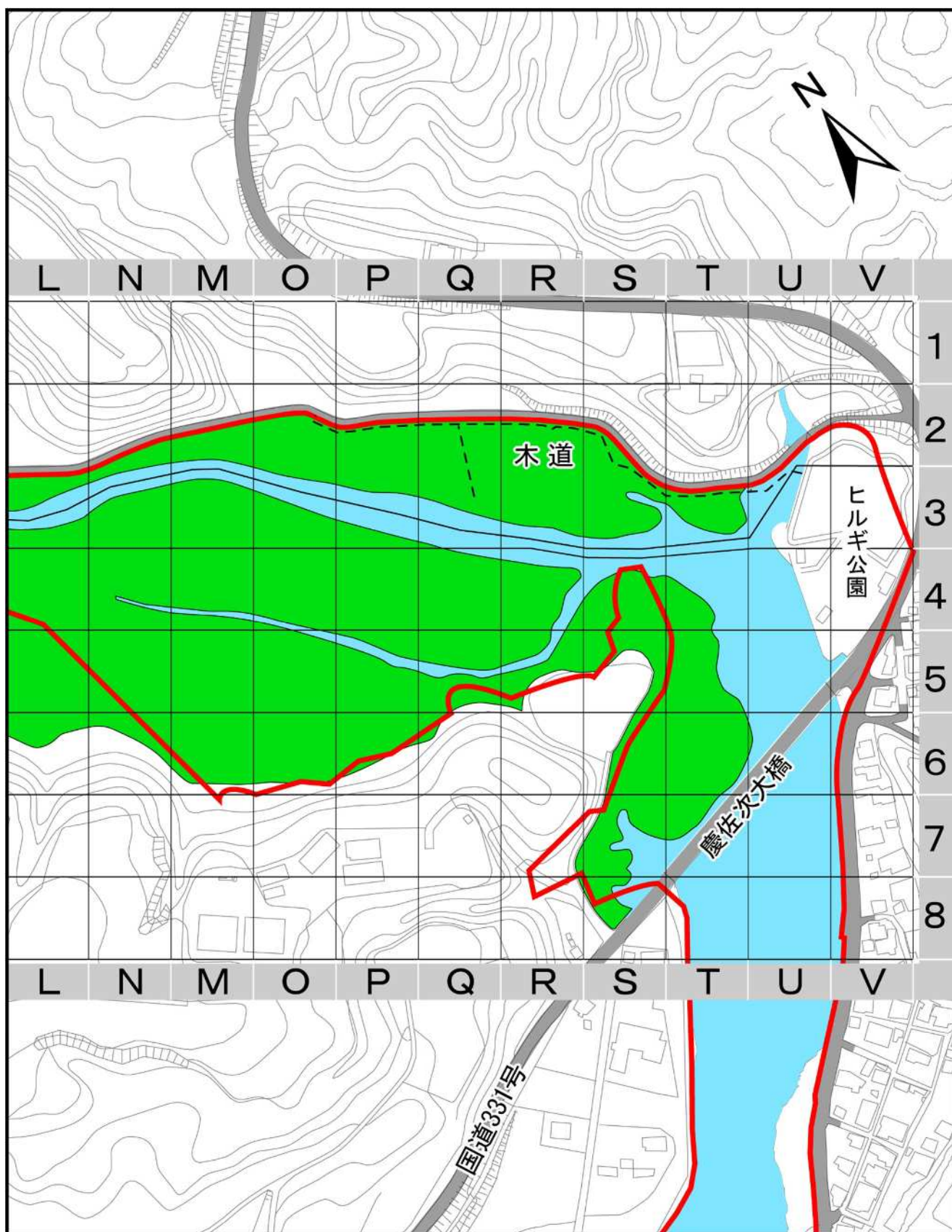
▶ 報告内容

- ① 日付
- ② 場所 -----（4頁の索引図面を参照）
- ③ 対象種名 ---（ハンドブックの掲載種を参照）
- ④ 個体数 -----（村指定ゴミ袋の数など）
- ⑤ 処理方法

連絡先：東村教育委員会（0980）43-2130

④ 掲載種の生育地索引図面



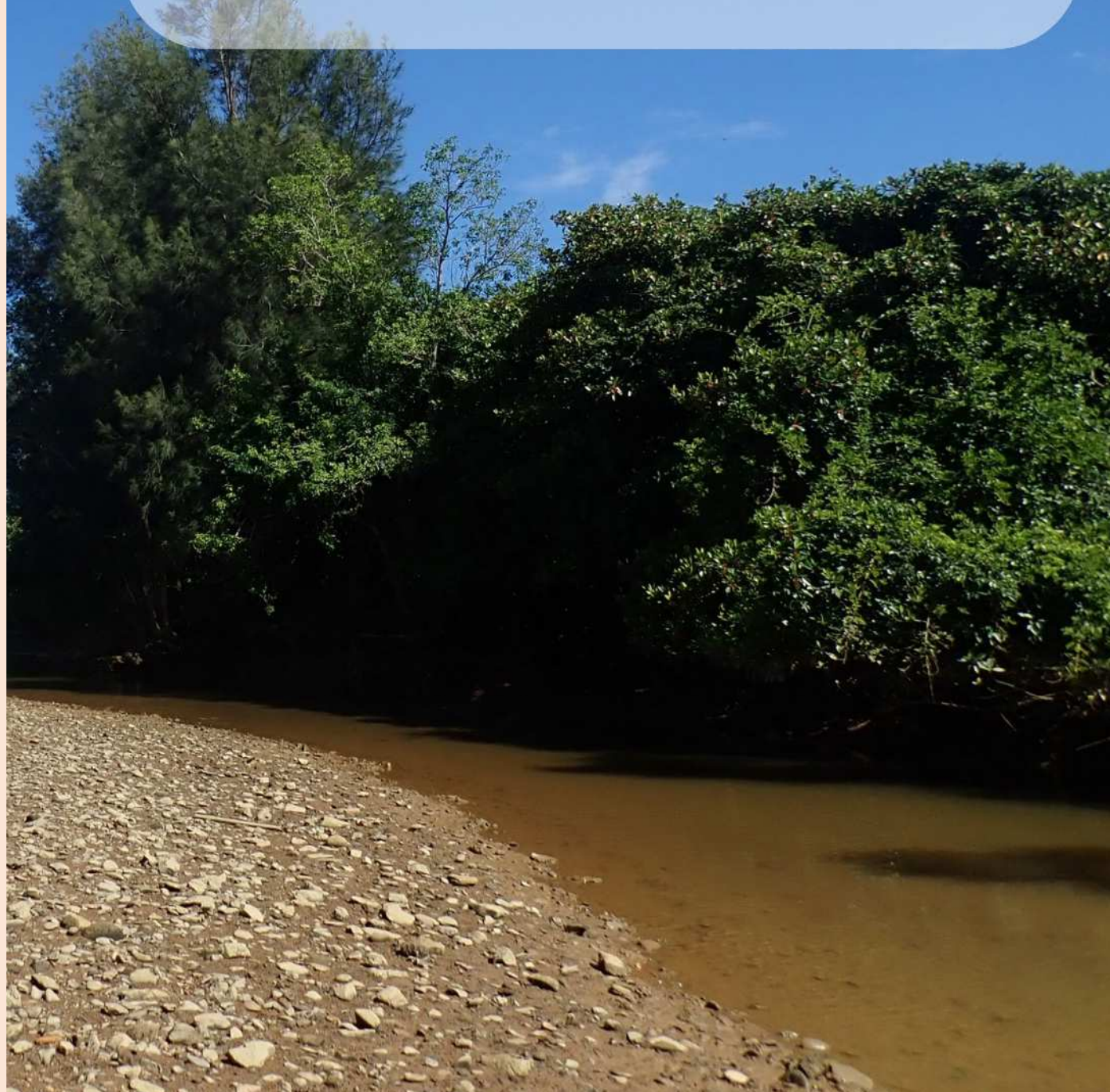


⑤ 掲載種



1. 早急な対策が必要な外来種

ここで示す外来種は、ヒルギ林の景観阻害や、ヒルギ林に定着し、生育し続けると陸化に拍車をかけてしまうことから早急な対策が必要な外来種です。



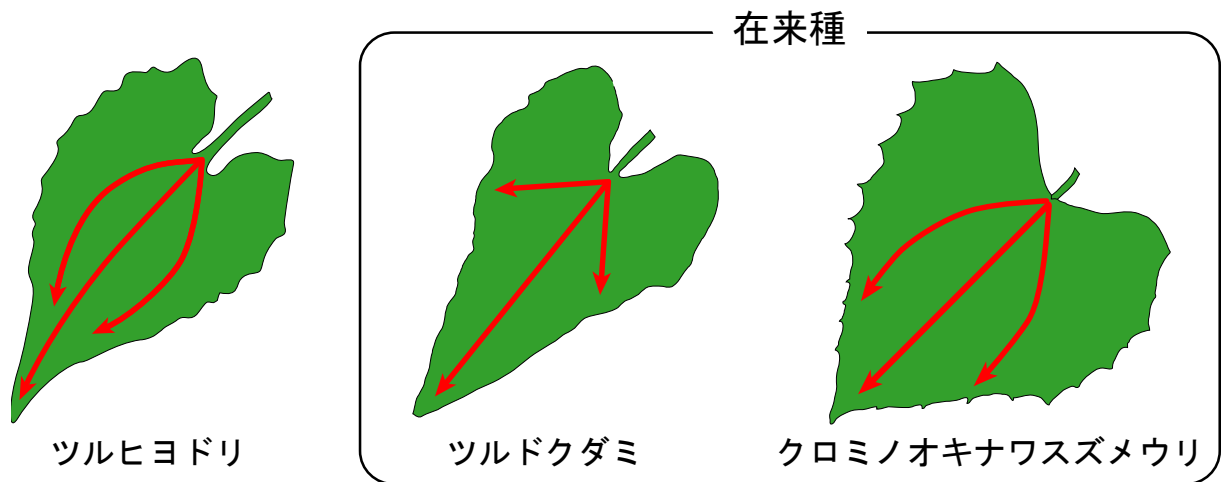
ツルヒヨドリ

キク科 *Mikania micrantha* H.B.K.

生育地 3-C・D



ツルヒヨドリ



葉脈の入り方が見分けのポイントになります。

【 特徴 】

- 他の植物等に絡み付いて長さ 20m 以上に達し、林冠を覆うようにして広がる多年草の大型つる植物です。
- 葉は、長さ 4～13cm、幅 5～10cm、表面はつやつやとしていて少し光沢があり無毛で、1 箇所から 2 枚の葉が出る対生です。
- 11～12 月にかけて小さな白い花が集まって咲く集合花をつけます。一つの花の大きさは 3mm ほどで、1 月には綿毛の付いた軽い種が多量につきます。
- 種子は、風散布により、容易に分布を広げます。
- 1984 年沖縄県うるま市の天願川河口付近で発見され、現在は沖縄島全域に広く分布しつつあります。

ツルヒヨドリ



【 生育場所 】

- 草原、路傍、湿地、多様な環境に生育します。

【 被害・影響 】

- 他の植物を覆いながら生育するため、その下に生育する植物に光が当たらなくなり、元々あった在来植物等は枯れてしまいます。

【 対策 】

駆除方法

- 駆除作業前には、東村の担当部署と慶佐次区への届け出が必要です（3 ページ参照）。
- 開花前の 10 月頃までに抜き取ることが望ましいです。やむを得ず種がついている時期に防除を行う場合は、種が飛び散らないよう種を先に取りする必要があります。また、種や根と茎が表土に残っている可能性があるため、確実に死滅させるためには、継続的な駆除作業と監視が必要です。
- わずかな茎の断片からも発芽し、増えることができる植物です。

駆除後の処理

- 駆除後の個体は、再定着や種子落下を防ぐために、ビニール袋等に入れて、現場から運び出し、村のごみ処理施設で焼却処分することとなっています（外来生物法）。

開花・種子の時期

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
開花・種子	→										←	

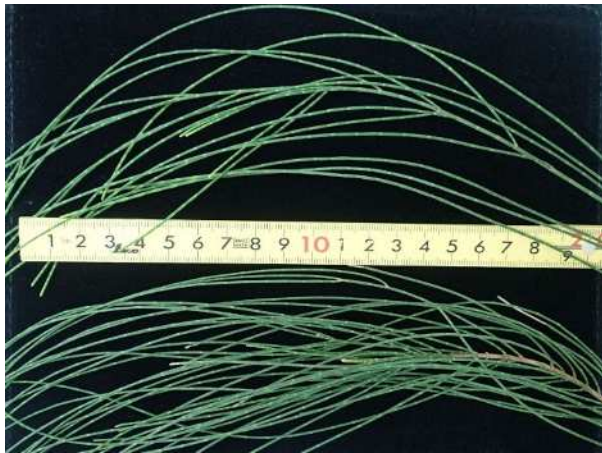
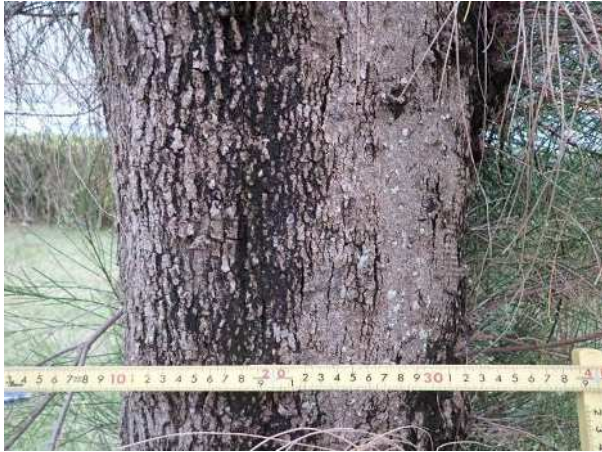
カニガムモクマオウ

モクマオウ科 *Casuarina cunninghamiana* Miq.

生育地 2-A~P



カニンガムモクマオウ



← カニンガムモクマオウ

← トキワギョリュウ

【 特徴 】

- 本地域では、高さ 17.02m、直径 45.6cm に達する大きさでした。
- 葉は鱗片状、節部に 8~10 枚、輪生します。
- 開花期は 1 月下旬です。
- カニンガムモクマオウの方が、緑色の枝状の葉が太くてしっかりしているように見え、トクサバモクマオウのほうが細く見えます。
- カニンガムモクマオウの樹皮は、幼木緑色、成木暗褐色、平滑であるが、多少ひねった縦裂があります。また、上皮が薄く漸次脱落します。(樹齢や生育環境により区別できない場合があります)

カニンガムモクマオウ



海岸(砂浜)では、野生化した大型のモクマオウ類が見られます。



モクマオウ類の葉で覆われた林床では、草本もまばらになります。

カニンガムモクマオウ

【 生育場所 】

- 戦後、防風・防潮林として植栽され、やせ地や海岸(砂浜)などに野生化して生育しています。

【 被害・影響 】

- モクマオウの仲間は、周辺を酸性土壌に変えてしまうことから、在来植物の生育を阻害してしまいます。

【 対策 】

駆除方法

- 本種が大きく成長してしまうと、人力で抜き取ることが困難になるため、稚樹の時期から、定期的な抜き取り作業を行うことが効果的です。

駆除後の処理

- 駆除後の幹や枝葉は、飛散しないように集積し、乾燥させて枯死させます。
- 種子は、現場から運び出して、焼却処分することが望ましいです。

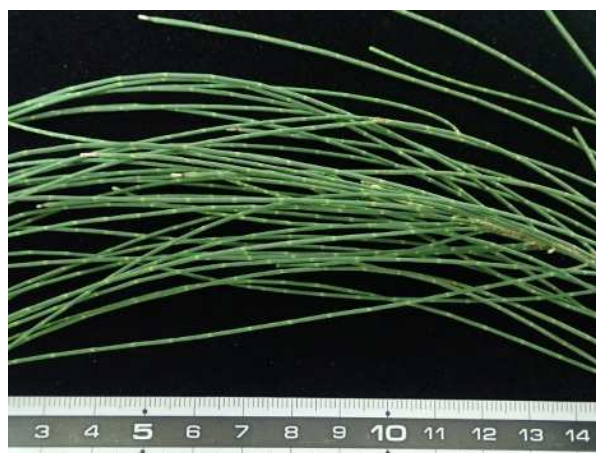
開花・種子の時期

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
開花・種子	↔											

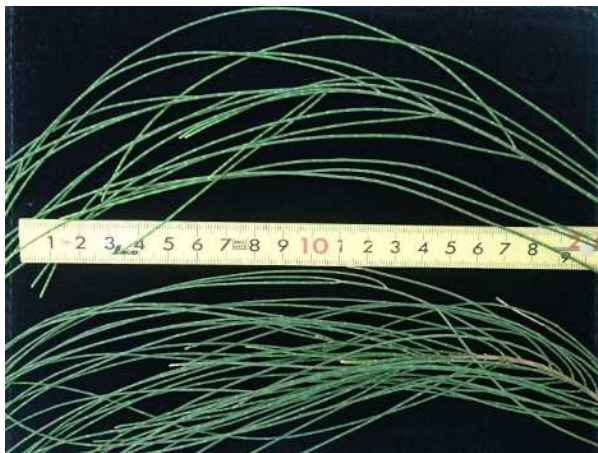
トキワギョリュウ (別名：トクサバモクマオウ)

モクマオウ科 *Casuarina equisetifolia* J. R. et J. G. Forst.

生育地 2-Q、7・8-S



トキワギョリュウ



← カニンガムモクマオウ

← トキワギョリュウ

【 特徴 】

- 本地域では、高さ 20m、直径 44cm に達する大きさでした。
- 葉は鱗片状、節部に 6~8 枚、輪生します。
- 開花期は 3 月下旬~5 月中旬です。
- カニンガムモクマオウの方が、緑色の枝状の葉が太くてしっかりしているように見え、トキワギョリュウのほうが細く見えます。
- トキワギョリュウの樹皮は、外皮は淡褐色で光沢があり、肉皮は深紅色、縦列し繊維質、自然剥皮します。（樹齢や生育環境により区別できない場合があります）

トキワギョリュウ



海岸(砂浜)では、野生化した大型のモクマオウ類が見られます。



モクマオウ類の葉で覆われた林床では、草本もまばらになります。

【 生育場所 】

- 戦後、防風・防潮林として植栽され、やせ地や海岸(砂浜)などに野生化して生育しています。

【 被害・影響 】

- モクマオウの仲間は、周辺を酸性土壌に変えてしまうことから、在来植物の生育を阻害してしまいます。

【 対策 】

駆除方法

- 本種が大きく成長してしまうと、人力で抜き取ることが困難になるため、稚樹の時期から、定期的な抜き取り作業を行うことが効果的です。

駆除後の処理

- 駆除後の幹や枝葉は、飛散しないように集積し、乾燥させて枯死させます。
- 種子は、現場から運び出して、焼却処分することが望ましいです。

開花・種子の時期

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
開花・種子				←→								

ギンネム (別名：ギンゴウカン)

マメ科 *Leucaena leucocephala* (Lam.) de Wit

生育地 2-I~U、7・8-S



ギンネム



【 特徴 】

- 高さ 10m に達する常緑樹です。
- 葉は偶数 2 回羽状複葉で、羽片は 3～8 対、小羽片は狭卵形で 20 対ほどあり、無毛です。
- 沖縄島などの暖地では年間を通して茎の先に花序を出し、長さ 6mm ほどの淡緑白色の花を球状に付けます。

ギンネム



道路沿いで帯状に生育するギンネムの様子



林床には、稚樹が多く生育しています。

【 生育場所 】

- 日当たりの良い、やや乾燥したところを好みます。

【 被害・影響 】

- 若葉や芽にミモシン（mimosine）という有毒アミノ酸を含有しており、家畜がこれらを摂取し過ぎると脱毛、繁殖障害、成長阻害といった症状が出ます。

【 対策 】

駆除方法

- 本種が大きく成長してしまうと、人力で抜き取ることが困難になるため、稚樹の時期から、定期的な抜き取り作業を行うことが効果的です。

駆除後の処理

- 駆除後の幹や枝葉は、飛散しないように集積し、乾燥させて枯死させます。
- 種子は、現場から運び出して、焼却処分することが望ましいです。

開花・種子の時期

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
開花・種子	←											→



2. 監視が必要な外来種

ここで示す外来種は、将来、侵入・定着した場合、地域の生態系やヒルギ林に影響を及ぼすおそれがあるため、監視が必要な外来種です。



ポタンウキクサ (別名：ウォーターレタス)

サトイモ科 *Pistia stratiotes* L.

生育地 2-H



ボタンウキクサ



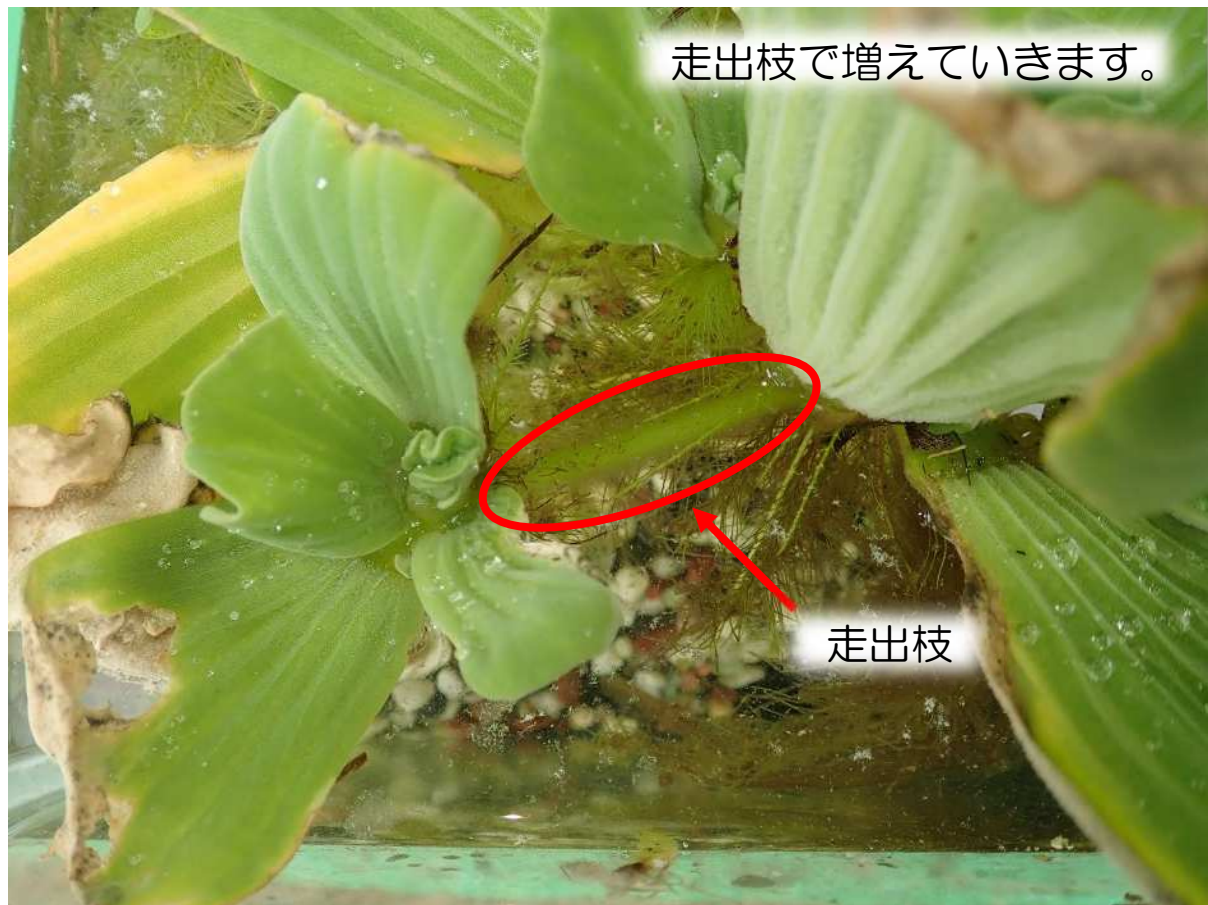
過去には、上流から流されてきたと思われる個体を確認されていることから監視が必要です。

上記の写真は、農道沿いの溜水（真水）に生育する個体です。

【 特徴 】

- 水中に根を伸ばして浮遊する多年草です。
- 茎は短縮して、広卵形から扇形の葉を重ね付けます。
- 花は、5～10月に葉の隙間から小さな花を咲かせます。
- 繁殖力は旺盛で、砂防ダムなどの水面を埋めつくすほどです。

ボタンウキクサ



ボタンウキクサ

【 生育場所 】

- 池、河川、水田、水路などに生育します。

【 被害・影響 】

- 水中の酸素不足や水質低下を招き、様々な生物の生息環境の悪化の原因となっています。
- 水面を覆い尽くして光を遮ることで、他の水性植物の光合成を阻害することが指摘されています。

【 対策 】

駆除方法

- 駆除作業前には、東村の担当部署と慶佐次区への届け出が必要です（3 ページ参照）。
- 開花前の 4 月までに網等を用いてすくい取ることが望ましいです。やむを得ず種がついている時期に防除を行う場合は、種が落下しないよう種を先に取りする必要があります。また、種が水底に残っている可能性があるため、網等を用いて水底の泥などをすくい取ると駆除効果が増します。

駆除後の処理

- 駆除後の個体は、再定着や種子落下を防ぐために、ビニール袋等に入れて、現場から運び出し、村のごみ処理施設で焼却処分することとなっています（外来生物法）。

開花・種子の時期

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
開花・種子					←					→		

モミジバヒルガオ (別名：タイワンアサガオ)

ヒルガオ科 *Ipomoea cairica* (L.) Sweet 生息確認なし



モミジバヒルガオ



フェンスを覆い、生育する様子

【 特徴 】

- つる性の多年草です。
- つる性であるため、地面を匍匐^{ほふく}したり、他の植物に絡まりながら生育します。
- 地下の塊根から数 m に達する“つる”を伸ばします。つるは無毛、または節部に毛があります。
- 葉は掌状に 5～7 裂し、柄があって互生します。
- 花は 6～11 月頃、葉腋から出る花柄の先につき、直径 7cm ほどのロート形で紅紫色です。

モミジバヒルガオ



【 生育場所 】

- 林縁等に生育します。

【 被害・影響 】

- 在来植物を覆い、生育を阻害します。

【 対策 】

駆除方法

- 開花前の5月頃までに、抜き取りと併せて地表に落ちた種子の駆除のために表土の除去が望ましいです。

駆除後の処理

- 駆除後は、再定着や種子落下を防ぐために、ビニール袋等に入れて、運び出し、焼却処分をすることが望ましいです。

開花・種子の時期

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
開花・種子						←	→	→	→	→	→	

ヒルギダマシ

クマツヅラ科 *Avicennia marina* (Forsk.) Vierh.

※本来、先島諸島に分布する種ですが、人為的に沖縄島に持ち込まれた経緯を持つ種です。



密集して発芽する稚樹



稚樹

ヒルギダマシ



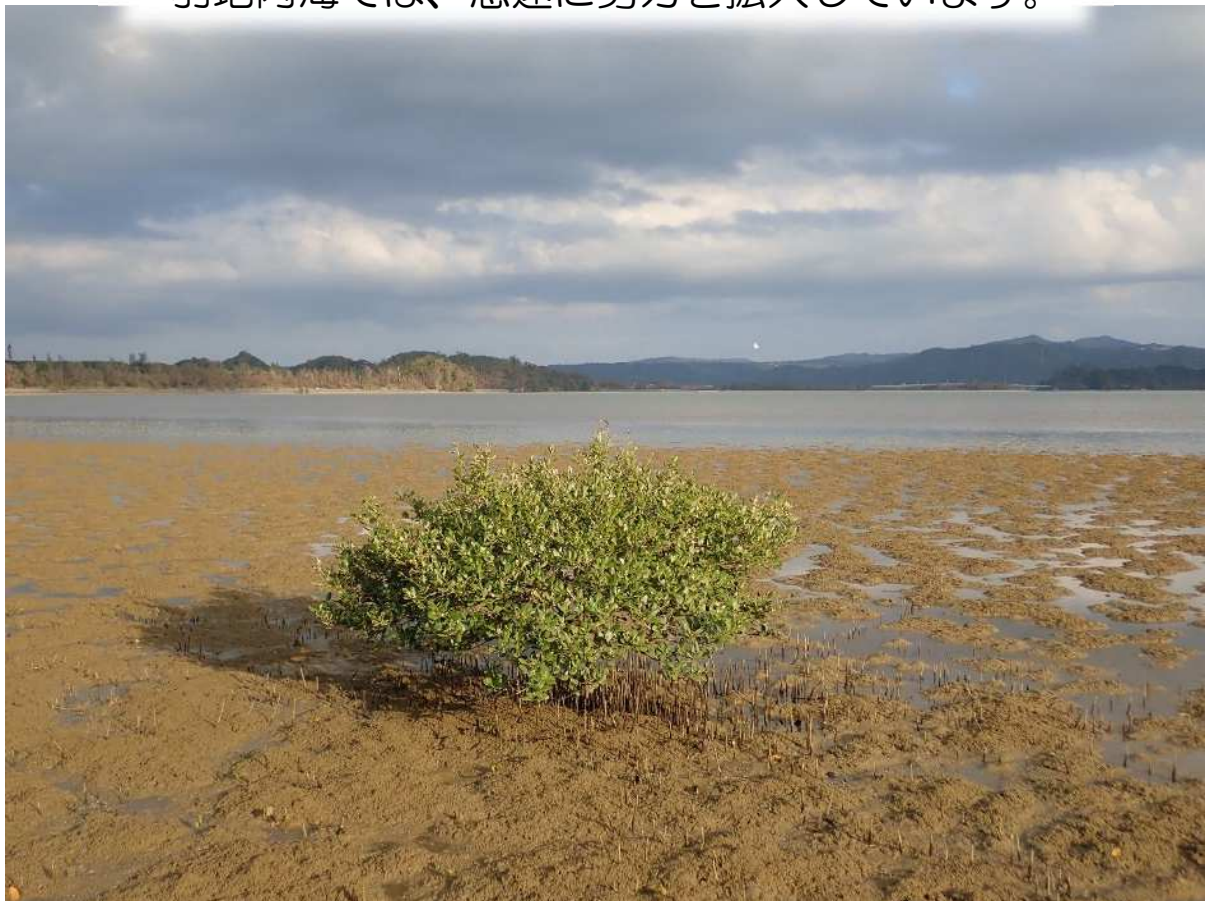
【 特徴 】

- 高さ 1～4m に達する常緑樹です。
- マングローブの前面に生え、沖縄諸島では 2m 以下の小型でも成熟し、枝を地際で広げ幹の周辺から多数の針状の呼吸根を出します。
- 葉は倒卵形～楕円形で、裏は粒状毛に覆われて白い印象です。
- 花は夏頃に咲きます。頭状花序に小さな黄色い花を数個付けます。

ヒルギダマシ



羽地内海では、急速に勢力を拡大しています。



【 生育場所 】

- 潮間帯の砂泥地に生育します。

【 被害・影響 】

- 放射状に広がる呼吸根がトカゲハゼの生息地を覆い、トカゲハゼが餌場とする開放的な泥干潟が消失する等の影響が報告されています。

【 対策 】

駆除方法

- 本種が大きく成長し、定着してしまうと人力で抜き取ることが困難になるため、種子の漂着や稚樹の状況を定期的に監視し、確認された場合には、取り除いてください。

駆除後の処理

- 種子や稚樹は、陸にあげて乾燥させて、枯死させます。その後、処理してください。

開花・種子の時期

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
開花・種子							←	→				



3. その他の外来種

ここで示す外来種は、ヒルギ林に対して直接的な影響は低いものの、外来種として抑制する必要があります。現状においては道路維持管理で行われている草刈りや、抜き取り等の対応で済みます外来種です。



ハンノキ (別名：台湾ハンノキ)

カバノキ科 *Alnus japonica* (Thunb.) Steud.

生育地 2-A

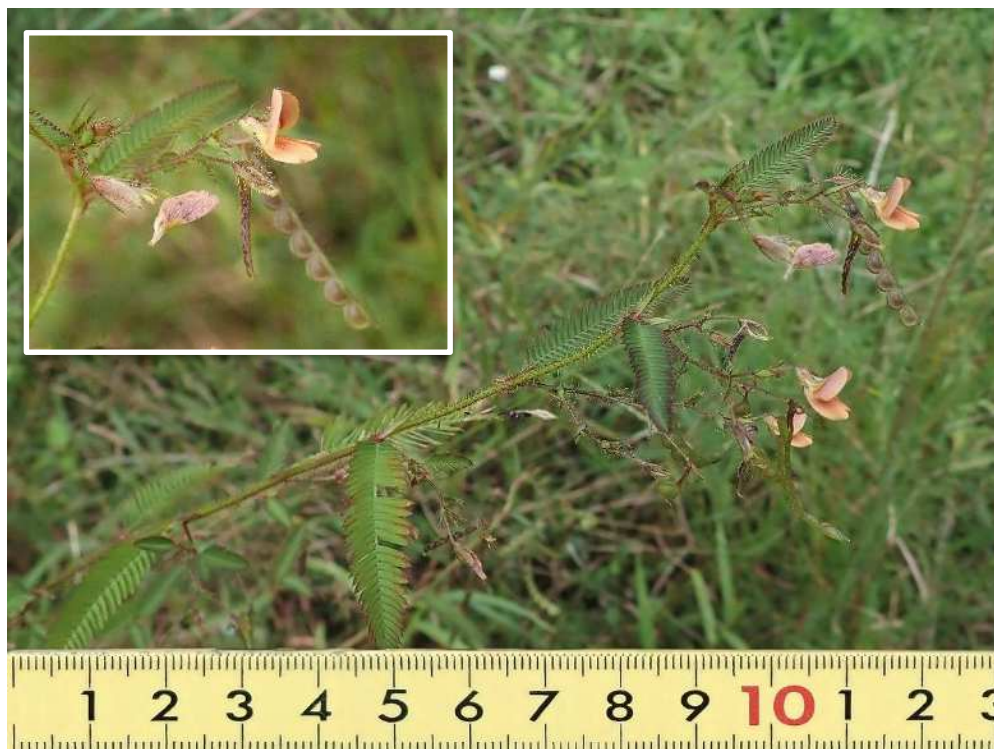


月	開花 種子
1	↓
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	↑
12	

エダウチクサネム (別名：アメリカクサネム)

マメ科 *Aeschynomene americana* L.

生育地 2-O

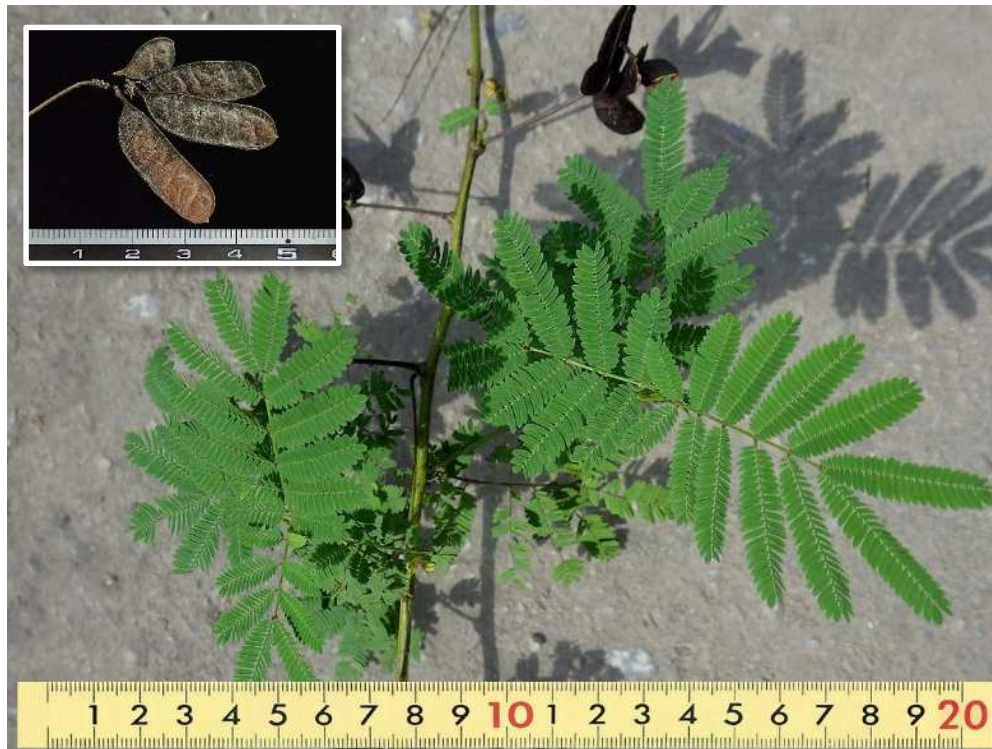


月	開花 種子
1	
2	
3	
4	↑
5	
6	
7	
8	↓
9	
10	
11	
12	

アメリカゴウカン (別名：ハイクサネム)

マメ科 *Desmanthus illinoensis* (Michx.) MacM.

生育地 2-E

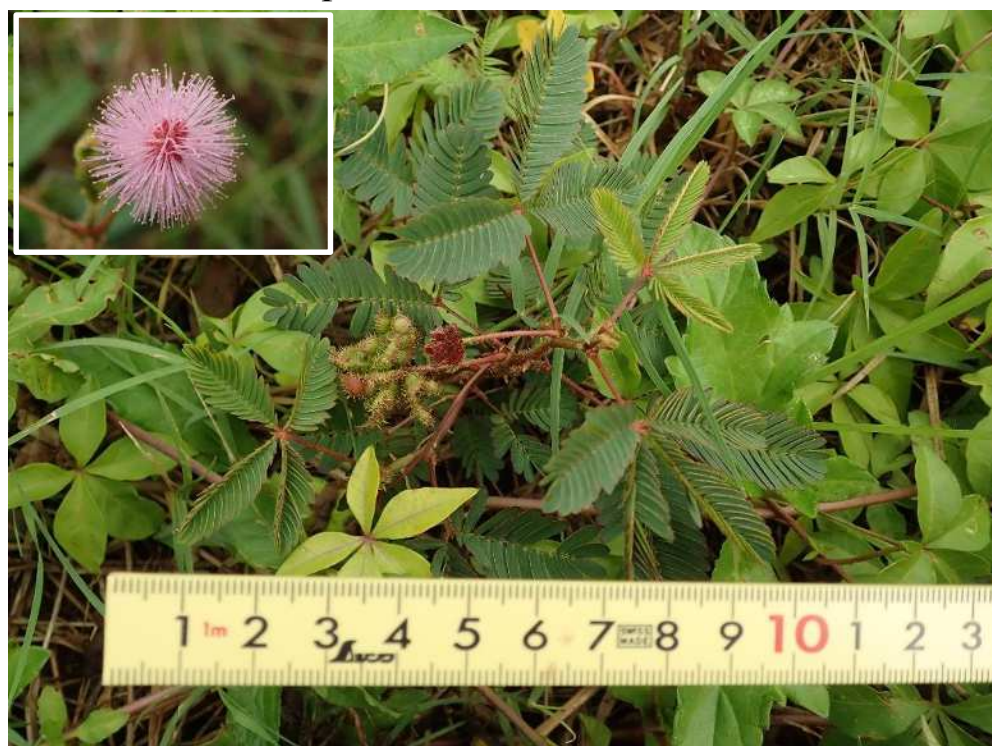


月	開花 種子
1	
2	
3	
4	
5	↑ ↓
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	

オジギソウ (別名：ネムリグサ)

マメ科 *Mimosa pudica* L.

生育地 2-F



月	開花 種子
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	↑ ↓
8	
9	
10	
11	
12	

ムラサキカタバミ

カタバミ科 *Oxalis corymbosa* DC.

生育地 2-T



月	開花 種子
1	
2	
3	
4	
5	↕
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	

コバナヒメハギ (別名：カスミヒメハギ)

ヒメハギ科 *Polygala paniculata* L.

生育地 2-A~Q



月	開花 種子
1	↑
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	

ハイニシキソウ

トウダイグサ科 *Euphorbia chamaesyce* L.

生育地 8-S



月	開花 種子
1	↑ ↓
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	

シマニシキソウ (別名：台湾ニシキソウ)

トウダイグサ科 *Euphorbia hirta* L.

生育地 2-A~U

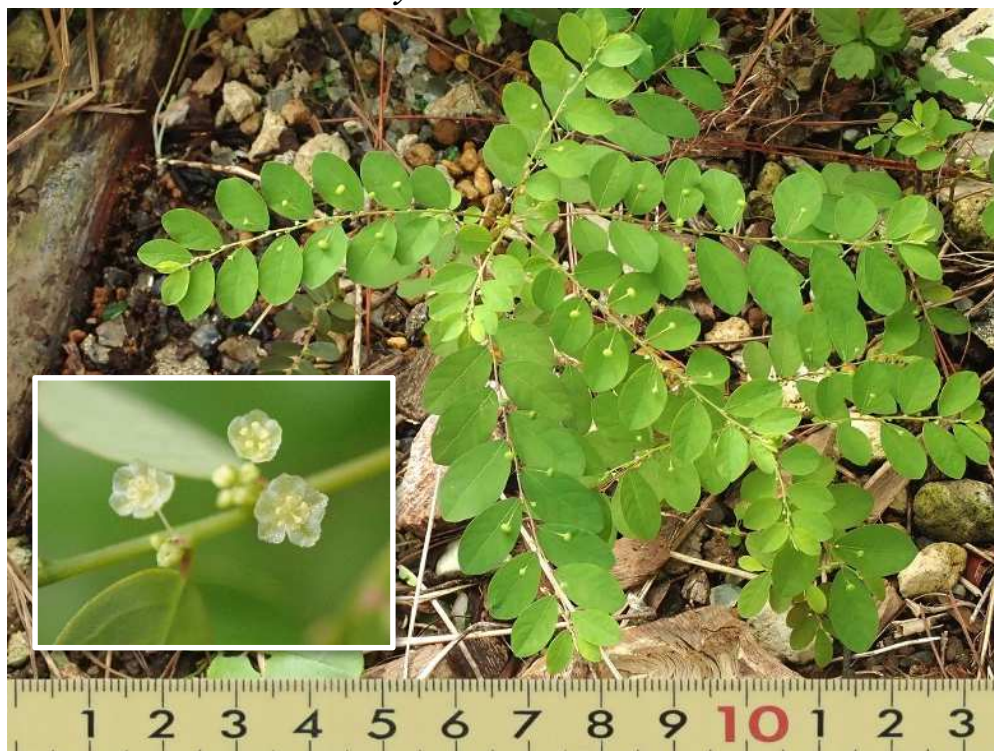


月	開花 種子
1	↑ ↓
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	

ナガエコミカンソウ (別名：ブラジルコミカンソウ)

トウダイグサ科 *Phyllanthus tenellus* Roxb.

生育地 8-S



月	開花 種子
1	↑ ↓
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	

キンゴジカ

アオイ科 *Sida rhombifolia* L.

生育地 2-E~T、8-S

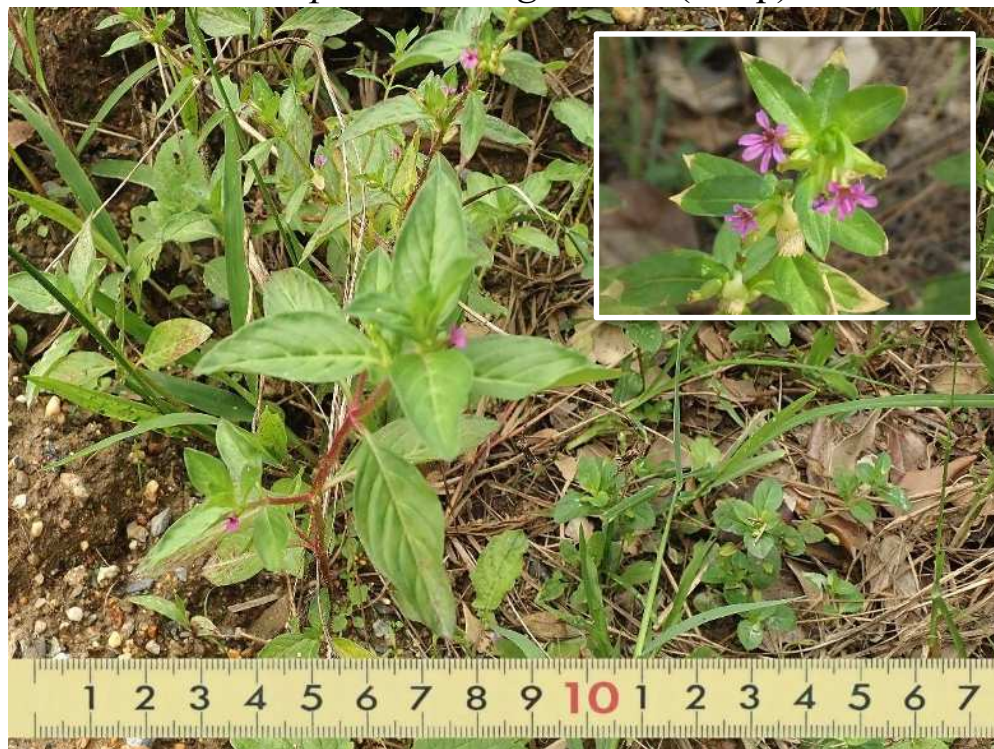


月	開花 種子
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	↑ ↓
9	
10	
11	
12	

ネバリミソハギ

ミソハギ科 *Cuphea carthagenensis* (Jacq.) Macbr.

生育地 2-E



月	開花 種子
1	
2	
3	
4	
5	↑
6	
7	
8	
9	
10	
11	↓
12	

コマツヨイグサ (別名：キレハマツヨイグサ)

アカバナ科 *Oenothera laciniata* Hill

生育地 2-A~C



環境省・農林水産省：重点対策外来種

月	開花 種子
1	
2	
3	
4	↑
5	
6	
7	
8	
9	
10	↓
11	
12	

ユウゲショウ

アカバナ科 *Oenothera rosea* L'Hérit.ex Aiton

生育地 2-B



月	開花 種子
1	
2	
3	
4	
5	↑
6	
7	
8	
9	
10	↓
11	
12	

キバナオトメアゼナ (別名：アメリカシソクサ)

ゴマノハグサ科 *Mecardonia procumbens* (Mill.) Small

生育地 2-A



月	開花 種子
1	
2	
3	
4	↑
5	
6	
7	
8	
9	
10	↓
11	
12	

ノウゼンカズラ

ノウゼンカズラ科 *Campsis grandiflora* (Thunb.) K. Schum. 生育地 3-U



月	開花 種子
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	↑ ↓
8	
9	
10	
11	
12	

ヤナギバルイラソウ (別名：ムラサキイセハナビ)

キツネノマゴ科 *Ruellia brittoniana* Leonard 生育地 3-B



月	開花 種子
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	↑ ↓
8	
9	
10	
11	
12	

環境省・農林水産省：その他の総合対策外来種

ナガバハリフタバ (別名：ナガバハリフタバムグラ)

アカネ科 *Borreria laevis* (Lam.) Griseb.

生育地 2-A



月	開花 種子
1	
2	
3	
4	↑
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	↓
12	

カッコウアザミ

キク科 *Ageratum conyzoides* L.

生育地 2-A~C



月	開花 種子
1	
2	
3	
4	↑
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	↓
12	

環境省・農林水産省：その他の総合対策外来種

ヒロハホウキギク

生育地 2-M

キク科 *Aster subulatus* Michx. var. *sandwicensis* A.G.Jones



月	開花 種子
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	↑
9	
10	
11	
12	↓

シロ/センダングサ (別名：アワユキセンダングサ)

キク科 *Bidens pilosa* L. var. *radiata* Sch.-Bip. 生育地 2-A~V



月	開花 種子
1	↑
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	

ヒメムカシヨモギ (別名：メイジソウ)

キク科 *Erigeron canadensis* L.

生育地 8-S



月	開花 種子
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	↑ ↓
8	
9	
10	
11	
12	

オオアレチノギク

キク科 *Conyza sumatrensis* (Retz.) E. H. Walker

生育地 2-A



月	開花 種子
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	↑ ↓
8	
9	
10	
11	
12	

コケセンボンギクモドキ

キク科 *Lagenophora* sp.

生育地 2-F



月	開花 種子
1	↑
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	↓

アメリカハマグルマ (別名：ミツバハマグルマ)

キク科 *Wedelia trilobata* (L.) Hitchc.

生育地 2-A~C



月	開花 種子
1	↑
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	↓

環境省・農林水産省：緊急対策外来種

パラグラス

イネ科 *Brachiaria mutica* (Forsk.) Stapf

生育地 2-F



月	開花 種子
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	↕
10	
11	
12	

シンクリノイガ

イネ科 *Cenchrus echinatus* L.

生育地 2-J、8-S



月	開花 種子
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	↕
8	
9	
10	
11	
12	

ヒメヒゲシバ

イネ科 *Chloris divaricata* R. Br.

生育地 8-S



月	開花 種子
1	↓
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	↑
12	

ジュズダマ

イネ科 *Coix lacryma-jobi* L.

生育地 2-A



月	開花 種子
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	↕
9	
10	
11	
12	

タツノツメガヤ

イネ科 *Dactyloctenium aegyptium* (L.) Beauv. 生育地 2-D、2-F



月	開花 種子
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	↕
10	
11	
12	

ヒメオニササガヤ

イネ科 *Dichanthium annulatum* (Forsk.) Stapf 生育地 2-A~Q



月	開花 種子
1	↓
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	↑
12	

ムラサキタカオススキ

生育地 2-B~R

イネ科 *Erianthus formosanus* (Stapf) Ohwi var. *pollinioides* (Rendle) Ohwi



月	開花 種子
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	↕
11	
12	

環境省・農林水産省：その他の総合対策外来種

オガサワラスズメノヒエ

イネ科 *Paspalum conjugatum* Bergius

生育地 2-E~S



月	開花 種子
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	↕
9	
10	↕
11	
12	

タチスズメノヒエ

イネ科 *Paspalum urvillei* Steud.

生育地 2-C~H、2-L~T



月	開花 種子
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	↕
11	
12	

ナピアグラス (別名：ナピーアグラス)

イネ科 *Pennisetum purpureum* Schumach.

生育地 2-Q・R、3-B・C



月	開花 種子
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	↕
11	
12	

ザラツキエ/コロ

イネ科 *Setaria verticillata* (L.) Beauv.

生育地 8-S



月	開花 種子
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	↑
11	
12	

オウゴンカズラ (別名：ポトス)

サトイモ科 *Rhaphidophora aurea* (Lind. ex Andre) Birdsey

生育地 8-S



月	開花 種子
1	↑
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	↓
12	

⑥ 用語解説

いちねんそう

1 年草

満1年以内に生活史を終える。ある季節は種子のみで過ごすもの。これにより夏型、冬型に分けられます。

たねんそう

多年草

個体の寿命が3年以上ある草本。地上部や地下部の寿命や交代の仕方はいろいろあります。

かじつ

果実

胚珠を収めていた子房全体は果実となります。その周りは果皮で、厚くなったり堅くなったりします。

しゅし

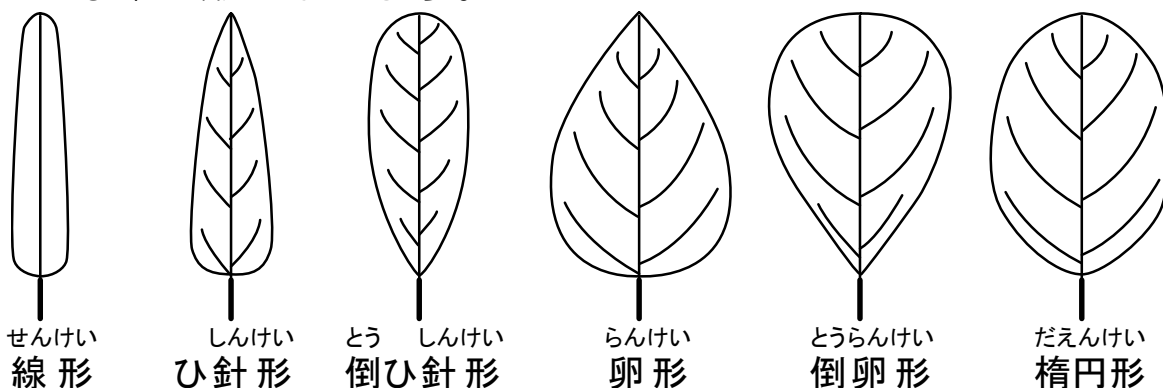
種子

胚と胚乳は皮に包まれ（珠皮から種皮へと移る）、全体は種子になります。

は かたち

葉の形

主な葉の形を示します。



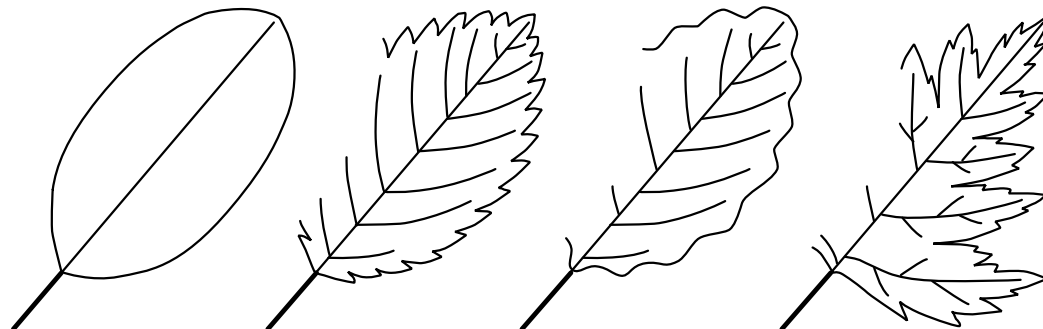
ようえん

葉縁

葉の縁（鋸歯を参照）。

きよし
鋸歯

葉の縁にできるノコギリの葉のようなギザギザの葉を鋸歯といいます。これに対して葉の縁が滑らかで鋸歯がないことを全縁といいます。その他、主な葉縁を示します。



ぜんえん
全縁

きよし
鋸歯

はじょう
波状

けっこく
欠刻

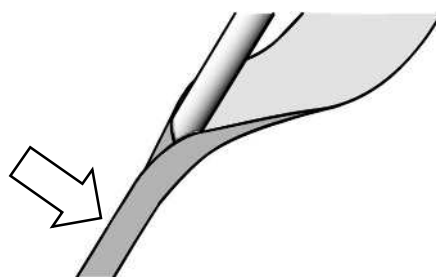
ようえき
葉腋

植物の葉が茎に付着する部分で、芽ができるところ。



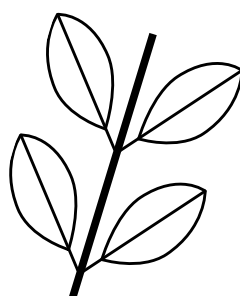
ようしょう
葉鞘

葉の基部が鞘（さや）状に茎を巻いているもの。

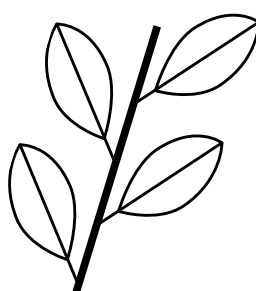


ようじょ
葉序

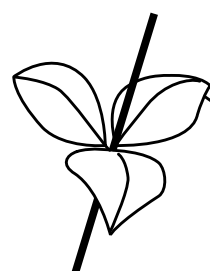
葉のつき方には決まった規則があり、その配列を葉序という。



対生



互生



輪生(3個以上)

かぜさんぷ

風散布

種子や果実に毛や翼を持ち、風に乗りやすい構造になっています。

ふちやくさんぷ

付着散布

鈎状の突起や毛、または粘液によって付着して、別の場所に運ばれます。

こきゅうこん

呼吸根

地下を伸びる根の一部が地上に突出したもの。水湿地に生育する植物に見られます。

ふていこん

不定根

茎の節や節の間、葉柄などから出る根。不定とはいってもそれぞれ出るところは決まっている。

こんけい

根茎

地中を横にはう地下茎のうち、根のように見えるものをいいます。

そうしゅつし らんなー

走出枝(ランナー)

ほふくするシュートの一型。節々から根を下ろすストロンと違い、途中から根を下ろさない枝をいいます。

ち かけい

地下茎

地中にある茎のことをいいます。

ちょうかんたい

潮間帯

潮の干満により露出と水没を繰り返す場所を示します。

とくていがいらいせいぶつ

特定外来生物

明治時代以降に日本に入り込んだ外来生物の中で、農林水産業、人の生命・身体、生態系へ被害を及ぼすもの、又はその恐れのあるものの中から指定された生物を指します。発見されたらすぐに防除することが必要な種です。

そうごうたいさくがいらいしゅ

総合対策外来種

国内に定着が確認されているもの。生態系等への被害を及ぼしている又はそれがあつため、防除、遺棄・導入・逸出防止等のための普及啓発など総合的に対策が必要な種です。

この中には、「緊急対策外来種」、「重点対策外来種」、「その他の総合対策外来種」が含まれています。

きんきゅうたいさくがいらいしゅ

緊急対策外来種

対策の緊急性が高く、積極的に防除を行う必要がある。

じゅうてんたいさくがいらいしゅ

重点対策外来種

甚大な被害が予想されるため、対策の必要性が高い。

そ の た の そうごうたいさくがいらいしゅ

その他の総合対策外来種

「緊急対策外来種」、「重点対策外来種」以外。

さんぎょうか んりがいらいしゅ

産業管理外来種

産業又は公益性において重要で、代替性がなく、その利用にあたっては適切な管理が必要。

⑦ 和名索引 (50 音)

あ	アメリカゴウカン (別名:ハイクサネム) -----	41
	アメリカハマグルマ (別名:ミツバハマグルマ) -----	51
	エダウチクサネム (別名:アメリカクサネム) -----	40
	オウゴンカズラ (別名:ポトス) -----	57
	オオアレチノギク -----	50
	オガサワラスズメノヒエ -----	55
	オジギソウ (別名:ネムリグサ) -----	41
か	カッコウアザミ -----	48
	カニンガムモクマオウ -----	12
	キバナオトメアゼナ (別名:アメリカシソクサ) -----	46
	キンゴジカ -----	44
	ギンネム (別名:ギンゴウカン) -----	20
	コケセンボンギクモドキ -----	51
	コバナヒメハギ (別名:カスミヒメハギ) -----	42
	コマツヨイグサ (別名:キレハマツヨイグサ) -----	45
さ	ザラツキエノコロ -----	57
	シマニシキソウ (別名:タイワンニシキソウ) -----	43
	ジュズダマ -----	53
	シロノセンダングサ -----	49
	シンクリノイガ -----	52
た	タチスズメノヒエ -----	56
	タツノツメガヤ -----	54
	ツルヒヨドリ (別名:コバナツルギク) -----	8
	トキワギョリュウ (別名:トクサバモクマオウ) -----	16
な	ナガエコミカンソウ (別名:ブラジルコミカンソウ) -----	44
	ナガバハリフタバ (別名:ナガバハリフタバムグラ) -----	48
	ナピアグラス (別名:ナピーアグラス) -----	56
	ネバリミソハギ -----	45
	ノウゼンカズラ -----	47
は	ハイニシキソウ -----	43
	パラグラス -----	52
	ハンノキ -----	40
	ヒメオニササガヤ -----	54
	ヒメヒゲシバ -----	53
	ヒメムカシヨモギ (別名:メイジソウ) -----	50
	ヒルギダマシ -----	34
	ヒロハホウキギク -----	49
	ボタンウキクサ (別名:ウォーターレタス) -----	26
ま	ムラサキカタバミ -----	42
	ムラサキタカオススキ -----	55
	モミジバヒルガオ (別名:タイワンアサガオ) -----	30
や	ヤナギバルイラソウ (別名:ムラサキイセハナビ) -----	47
	ユウゲショウ -----	46

⑧ 参考文献

- ・初島住彦, 1975: 琉球植物誌(追加・訂正版). 沖縄生物研究会.
- ・環境省, 農林水産省, 2015: 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト(生態系被害防止外来種リスト)
- ・佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫編, 1982: 日本の野生植物(草本 I 単子葉類, 草本 II 離弁花類, 草本 III 合弁花類. 株式会社平凡社.
- ・佐竹義輔・原寛・亘理俊次・富成忠夫編, 1989: 日本の野生植物(木本 I, 木本 II). 株式会社平凡社.
- ・初島住彦・天野鉄夫, 1994: 琉球植物目録. 沖縄生物学会.
- ・中須賀常雄, 1994: 沖縄のモクマオウ. ひるぎ社.
- ・土橋豊, 1999: ビジュアル園芸・植物用語事典. 社団法人家の光協会.
- ・清水建美, 2001: 図説 植物用語事典. 八坂書房.
- ・清水矩宏・森田弘彦・廣田伸七, 2001: 日本帰化植物写真図鑑. 全国農村教育協会.
- ・植村修二・勝山輝男・清水矩宏・水田光男・森田弘彦・廣田伸七・池原直樹, 2010: 日本帰化植物写真図鑑第 2 巻. 全国農村教育協会.
- ・清水建美編, 2003: 日本の帰化植物. 株式会社平凡社.
- ・岩瀬徹, 2004: 野外観察ハンドブック写真で見る植物用語. 全国農村教育協会.
- ・谷城勝弘, 2007: カヤツリグサ科入門図鑑. 全国農村教育協会.
- ・桑原義晴, 2008: 日本イネ科植物図譜. 全国農村教育協会.
- ・星野卓二・正木智美・西本眞理子編, 2011: 日本カヤツリグサ科植物図譜. 株式会社平凡社.
- ・角野康郎, 2014: ネイチャーガイド 日本の水草. 株式会社文一総合出版.
- ・大橋広好・門田裕一・木原浩・邑田仁・米倉浩司編, 2015: 改訂新版 日本の野生植物(1 ソテツ科～カヤツリグサ科, 2 イネ科～イラクサ科, 3 バラ科～センダン科). 株式会社平凡社.
- ・大川智史・林将之, 2016: ネイチャーガイド 琉球の樹木奄美・沖縄～八重山の亜熱帯植物図鑑. 株式会社文一総合出版.
- ・大橋広好・門田裕一・木原浩・邑田仁・米倉浩司編, 2017: 改訂新版 日本の野生植物(4 アオイ科～キョウチクトウ科, 5 ヒルガオ科～スイカズラ科). 株式会社平凡.

東村・慶佐次地区外来種対策検討委員会 委員名簿

委員長 比嘉 鶴見	(東村教育委員会 課長)
渡久山 真一	(NPO 法人東村観光推進協議会 理事長)
新里 吉弘	(東村慶佐次 区長)
新城 和治	(元琉球大学教育学部教授)
新城 憲一	(沖縄県教育庁文化財課 文化財班 指導主事)



ノグパー

パインマン1号

ぼくたちも、「外来種対策」を応援しています！

「慶佐次湾のヒルギ林」とその周辺における

外来植物 対策 ハンドブック

2019 年 3 月 発行

発 行 沖縄県東村教育委員会

監 修 東村・慶佐次地区外来種対策検討委員会

編 集 株式会社 沖縄環境地域コンサルタント



①モミジバヒルガオ ②ムラサキタカオススキ ③オジギソウ
④アメリカハマグルマ ⑤ツルヒヨドリ ⑥カニングムモクマオウ

